

令和元年度第2回柏市史編さん委員会会議録

1 開催日時

令和元年12月20日（金）午前10時～午前11時30分

2 開催場所

沼南庁舎5階 501会議室

3 出席者

(1) 委員

中村勝委員長，高橋美由紀副委員長，清藤一順委員，高林直樹委員，
上山和雄委員，関惠子委員，藤田慶子委員，横山謙次委員（8名）

(2) 市教委員会・事務局

小貫省三生涯学習部長，吉田敬文化課長，黒須雅子主幹，小河原博志副主幹，
大野和宏副主幹，高野博夫主任（6名）

4 傍聴者

なし

5 議題等

(1) 正副委員長選出

(2) 報告事項

- ・令和元年度事業報告及び今後の事業計画について
- ・柏市史編さん刊行計画（「(仮)柏市史（沼南町史 通史編）」について

6 議事要旨

・正副委員長選出

前期委員の委嘱期間満了に伴い，藤田委員，横山委員が加入。

今期の委員長に中村委員，副委員長に高橋委員を任命。

・令和元年度事業報告及び今後の事業計画について

事務局より配布資料に基づき説明を行った。

（上山委員）（市制施行65周年記念写真展が開催された）インフォメーションセンターの場所は。展示期間の入場者数は。

（事務局）柏駅前にある商業施設の3階。市民課窓口に隣接しており，市の情報を発信している。不特定多数の人が行き交う場所のため入場者数は把握できていない。

(上山委員) 他の催しと比較しての感触はどうか。

(中村委員長) インフォメーションセンターに市内情報に詳しい職員が戻ってきたので、今後活発になる可能性がある。事務局では古文書や古写真に関する事業を積極的にしており、特に写真の利用で成果が表れている。

(上山委員) 資料はWeb上で完全に公開し、自由にアクセス可能にするのか。

(事務局) 完全公開は難しいが、先進地の様子や専門業者と検討を重ねながら条件整備を進めていきたい。

(高林委員) いつ頃の時代の資料が多いのか。

(事務局) 写真は戦後、昭和40～50年代が多い。柏市の変化を説明するには良い資料である。

(上山委員) パレットでの写真展には多くの人に来ていた。写真の被写体についてプライバシーの配慮はどうか。

(事務局) 顔がはっきり判る最近の写真は使用しない。

(清藤委員) いろいろと事業を開催しているのは分かるが、市民の反応はどうか。それらをどのように把握しようとしているのか。アンケートなどの成果をどう整理しているのか。

(事務局) 写真展では感想ノートを設置し、好意的な意見を多く得ている。古文書講読会ではアンケートを行い、改善のヒントをいただいている。

(清藤委員) 一般的にアンケートの結果は「よかった」の回答が多い。今後の事業展開の要望は聞いているか。

(事務局) 具体的には出ていないので、行政側から多様な企画を投げかけて市民の反応を見ている。

(清藤委員) 市民の要望に敏感であって欲しい。以前から触れているが、郷土資料展示室は北部地域の市民には疎遠である。地域差の補完に公民館や図書館などの活用があるが、地域を越えて柏市域全体に広げていく策を考えているか。

(事務局) 郷土資料展示室のPRには従来から苦慮している。今回の市制施行記念式典のように秘書課や広報部門など他部署との連携で、式典会場での写真の展示に留まらずインフォメーションセンターを利用し展示を行うなど活用機会の拡充を継続していく。

(関委員) 古文書講読会では、継続して受講している方が多い。総じて高齢者が多いので後続の世代の関与を懸念している。また、高齢化に伴い、終活の一環で資料となるものを処分してしまう。行政側でも資料を判別できる人材の養成を願いたい。

(中村委員長) 難しいことだが、一人でも二人でも育っていけば繋いでいけるだろう。

(上山委員) 広報かしわ連載記事(「続・柏に輝いた人たち」)で「続」とあるが前回分があるのか。Web公開できないのか。

(事務局) 両シリーズについて公開を進めていく。

(上山委員) 市内の大字に焦点を当てた研究や調査を進めていると思うが、市史及び教育委員会としてはどうなのか。

(事務局) 今夏、郷土資料展示室にて「根戸」地区の企画展を開催した。考古資料を扱う文化財担当と古文書を扱う市史編さん担当とが協力し準備を行ってきた。今後も夏休み期間に合わせて計画していく方針である。

(中村委員長) 近隣センターで、増尾地域や花野井地域などが歴史活動を行っている。

(事務局) 職員が講師として協力する場合がある。

(上山委員) そのような活動に市史編さん委員会として関与できるのか。呼ばれて行くのではなく計画的に構成してもいいのではないか。

(中村委員長) 今後の課題としたい。

・ 柏市史編さん刊行計画（「(仮) 柏市史 (沼南町史 通史編)」について
事務局より配布資料に基づき説明を行った。

(高橋委員) A5 判縦書きでの費用の概算はどのくらいか。

(事務局) 4か年の事業費として、原稿料や印刷製本を含めて1,400万円弱。

(中村委員長) 発行部数と販売価格の予定はどれくらいか。

(事務局) 700部を予定している。販売価格は未定である。基本原則に則り単純計算すると、印刷製本費÷発行部数から単価2万円と高額になるため、実績などを踏まえた総合的な判断による価格設定をしていく。

(上山委員) 考古資料編は何部か。

(事務局) 250部印刷。資料集につき少ないが、通史は多くする構想。

(上山委員) 図書館や関係機関への配布を考慮すると少なくはないか。

(中村委員長) 無料配布はどれくらいか。

(事務局) 考古資料は80~100部だった。通史は専門書とは異なるため、市内の小中学校への配布も考えられる。

(中村委員長) 内容についてはどうか。

(高林委員) 原稿が令和2年度末に集約できるか。3年度の業者への業務委託が円滑に進められるのかが重要。

(中村委員長) 令和2年度までの原稿執筆が第一前提。執筆者から図、写真を入れると文章が少なくなるため項目を減らさざるを得ないのかとの意見もある。学術レベルを落とさず読みやすい原稿の執筆をお願いしたい。他にはどうか。

(高橋委員) 通史の編さんに注力するのは承知しているが、柏市史研究の刊行計画はあるか。

(事務局) 2号までの刊行で終了ではない。通史の完成後に市民からの要望があれば循環的な刊行も検討したい。

・その他

(関委員) 旧手賀教会堂修復のクラウドファンディングの結果はどうか。

(事務局) 目標額の100万円を達成し、総額138万円の寄付をいただいた。現在は来年度の本格的な改修工事に向けての実施設計を進めている。

(高橋委員) 麗澤大学において市から借用した歴史資料を介して、授業の一環ではあるが大学生と中高生が交流し地域の生の資料に触れる機会が得られ有意義であった。

(藤田委員) 市民自らがふるさと柏を大切に思うきっかけとして、行政には講師の派遣、公民館活動などの啓発機会の提供とともに実働を期待する。例えば、民俗資料を有する民家で手つかずの家がある。

(事務局) 目録は未整備。

(藤田委員) それらも世代間を越えた地域活動の拡充の材料にして欲しい。

(上山委員) 本会議の印象として、柏の歴史事業の全体像が伝わらない。様々な事業を行っているがまとまりがないため、統合と分担の検討を組織的に進めて欲しい。

(中村委員長) 文化課だけでできることではないだろう。

(事務局) 文化課だけでも市史編さん委員会、文化財保護委員会、芸術文化振興委審議会があり、各委員会の中からも同様の意見をいただいている。文化課だけではなく組織的に検討していく課題だと認識している。

(中村委員長) 地域の旧大字、旧村の歴史の掘り起こしや組織的な共通理解を図ることが課題となる。

以上